

## 京都府生物多様性地域戦略の改定等に関する専門委員会 議事要旨

1. 開催日時 令和5年3月27日(月曜日) 午後1時から3時30分まで
2. 場所 京都府職員福利厚生センター第2会議室
3. 出席者
  - 【委員】 浅野委員、佐久間委員、竹門委員、細谷委員、深町委員(計5名)
  - 【事務局】 松山技監、後藤自然環境保全課長、その他関係課員
  - 【傍聴者】 なし
4. 議題
  - (1) 審議事項  
京都府生物多様性地域戦略の中間見直しについて
  - (2) その他
5. 議事概要
  - (1) 審議事項  
京都府生物多様性地域戦略の中間見直しについて

### (主な意見)

#### 森里川海のつながりの回復による多様な生態系の保全

- 生態系ネットワークは京都府だけでは出来ないことが多く、近隣府県との政策協調が重要。
- OECMを突破口にして他の項目に波及させていくことが重要
- 生物多様性は資本であり、維持するには投資が必要
- 環の公共事業の見直しについては、公共工事をランク付け・スクリーニングする仕組みや取り得る環境配慮の選択肢を提示できる仕組みを検討する必要がある
- 大企業などは生物多様性に配慮した取組を進めており、ネイチャーポジティブ経済関係で盛り込める要素は多い。
- 希少種の保全については、遺伝資源の観点を盛り込むべき

#### 人の積極的な関与による里地域の再生

- 保全のための利用という観点を強調すべき

- 現行戦略の記載内容が農林水産業に偏りすぎている。里地域の再生のためにもツーリズム事業者などとの対話についても盛り込むべき。
- 地域固有の食材など地域資源を守り付加価値を高めながら持続可能な農林水産業を推進することが重要
- 水産業について、内水面の取組を加えるべき。

#### 早期対策による外来生物の脅威の排除

- 外来種は、対策すること自体が目的ではなく、生態系サービスなど守るべきものがあり、それを阻害するから対策するもの。生物多様性が向上するとうことが記載されていない。
- 外来種に限らずシカのように増えすぎたものを管理することが重要であり仕組み作りが必要

#### 生物多様性を未来に受け継ぐための知見の集積、人材育成

- 生物多様性シンポジウムのイベントもよいが、一過性で終わらせず、双方向性のある保全団体との対話などを進めることが必要。
- 府職員の人材育成について盛り込むのがよい。数値目標にもできるのではないかな。
- 普及啓発などは、学校教育が重要であり、教育委員会との連携が必要。
- 都市などの環境の視点として、保全・場の創出の両方の側面で都市公園などの取り組みも盛り込むべき。府立公園を活用した自然に親しむ機会の創出なども可能。
- 消費や利用の大きな部分を担う都市部の住民に対し、どのように働きかけるかが重要

#### その他

- 自前の行政手段や政策資源とバランスをと戦略にしないと実効性がないものになる。今回は無理かもしれないが、次回の改定に向けては、政策手段を増やすためにも生物多様性基本条例のような制度を検討してもよいのでは。

#### (2) その他

- 「きょうと生物多様性センター」について、進捗状況を報告
  - 運営協議会設立総会実施（3月17日）
  - 事業開始（4月1日）